はじめに

本書は、立教大学日本語教育センターが、2012 年度から 2014 年度にかけて展開した、立教大学教育活動推進助成（立教 GP）「学習者の多様性を活かす新しい日本語コースの構築― TA 及び ICT の効果的活用及び教材開発―」についての報告書である。

立教における日本語教育プログラムは、基本的に 9 段階のレベル別で展開されている。本報告書における試みは、教材開発と ICT の活用することで複数のレベルにまたがる科目を設置し、プログラムに多様性と柔軟性をもたらす試みであり、同時に Teaching Assistant（TA）育成の試みである。科目開発と運営、成果の検証、そして TA の育成には、センター員が一丸となって取り組み、この成果は、すでに他のレベルにおける複数のレベルにまたがる科目を設置につなげているところであり、本報告書では、その成果を詳述したい。

報告書では詳述しないが、今回の試みがもたらした成果はもう一つあることに言及しておきたい。それは、キャンパス間の学生の往来である。本学には池袋キャンパスと新座キャンパスがあり、本報告は、新座キャンパスでの試みである。試みの背景には新座キャンパス日本語科目は、池袋キャンパスと比べ受講者数が少ないことが課題の一つとなっていたことがある。今回の試みによって設置された科目は複数のレベルにまたがって受講を認める日本語科目で、結果的に「新座キャンパスにしか設置されていない科目」ができたことになった。新座キャンパスの近くには、留学生が大勢居住する寮がある。留学生たちは、朝、寮から新座キャンパスに向かい、当該科目を受講し、その後池袋キャンパスに移動して他の科目を受講するという風景がこの 3 年間にわたり、一貫して見られた。池袋キャンパスの日本語科目・日本語相談室が新座キャンパス所属の学生に活用されるのと同じように、新座キャンパスの日本語科目が池袋キャンパス所属の学生に活用される仕組みができたと言える。

日本語教育センターとして、今回のような試みを重ねながら、留学生が池袋・新座両方のキャンパスを行き来し、学ぶ環境を設定することで、留学生の学びを豊かにし、またキャンパスの国際化を進める可能性を探っていきたいと考える。

日本語教育センター長／異文化コミュニケーション学部教授

丸山 千歌